

愛媛・松山 道後温泉

平成29年9月
オープン予定

道後の新たな幕開け

新たな温泉文化を発信する拠点誕生

飛鳥時代をイメージした湯屋



日本最古と言われる道後温泉にふさわしい
新しい温泉施設が誕生します。

特徴1 外観 聖徳太子の来浴や斎明天皇の行幸などの伝説が残る
飛鳥時代の建築様式を取り入れた特徴的な外観。

特徴2 中庭 中庭は、聖徳太子が詠った「椿の森」をイメージし、
椿が生い茂っている当時の様子を再現。

特徴3 浴室 1階は開放的大浴場と露天風呂。
2階は本館の皇室専用浴室の又新殿を再現し、「湯帳」を着て
古代の入浴体験ができ、家族風呂の利用が可能。

※「湯帳」とは『ユカタビラ』とも言い、一定以上の身分の人が身に着けたものと考えられ、ユカタの原形となったものです。



道後温泉本館

本館
営業中

明治27年(1894)に改築された道後温泉本館は、平成26年に改築120周年を迎えた日本を代表する近代和風建築で、平成6年に公衆浴場として初めて国の重要文化財に指定されました。平成21年に発行された「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」では、最高位の三ツ星の評価を受けるなど、国内はもちろん海外からも高く評価されています。

内観コンセプト

「太古の道後」をテーマに、道後温泉にまつわる伝説や物語などを「愛媛県の伝統工芸」と「最先端のアート」をコラボレーションした作品で演出し、「温泉の癒し」とともに、愛媛・松山でしか体験できない、感性を刺激する「新たな温泉文化を発信する拠点」を目指します。

エントランス～太古の道後の入口～



古来からの和紙と現代技術で誕生した空気を浄化する『ゼオライト和紙』の山門シェード



世界遺産・薬師寺西塔の再建でも使われた『千年の釣（和釣）』で描く巨大な湯玉



日本三大絵の一つ
『伊予絵』を使った暖簾

浴室～壁画に囲まれた大浴場と露天風呂～



奈良・平安時代からの歴史をもち、国指定伝統的工芸品の『砥部焼』の陶板壁画

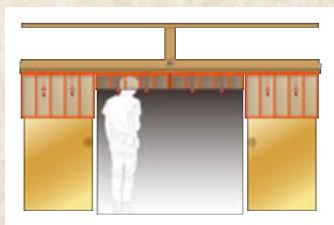


全国第2位の生産量を誇るヒノキの『デコラバネル』の雄大な山の世界を表現した装飾壁



いぶし銀の美しさで、松山城や皇居にも使用される『菊間瓦』の行燈

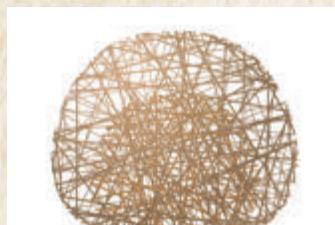
特別浴室～又新殿の再現～



和紙をすくための道具で、細い竹ひごで織細に編み上げられる『伊予簾』の御簾（みす）



国指定の伝統工芸品である大洲和紙と金属箔の融合で生まれた『ギルディング和紙』のシェードと照明



聖徳太子が伝授したと伝えられる「やちゃら編み」が特徴の『伊予竹細工』の行燈

個室～道後温泉にまつわる伝説を表現した5つの休憩室～



歴史は、飛鳥時代まで遡ると言われる『伊予水引』の「白鷺伝説」



190余年の歴史をもち、模様を手描きで描く『筒描染』の「玉の石伝説」



世界初のフルカラー表現を実現した五彩織りの技術を使った『今治タオル』の「椿の森」

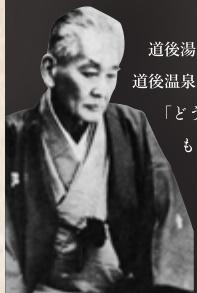


日本文化の象徴でもある漆器、250年の歴史をもつと言われる『桜井漆器』の技法による「行幸の歴史」



100種類もの彫刻刀を使い表現される『だんじり影刻』の「伊予の湯柄」

百年輝き続ける最古の湯 道後



道後湯之町初代町長の伊佐庭如矢は、
道後温泉本館の改築（明治27年）で、
「どうせやるなら、他所（よそ）が真似出来ない
ものを作ってこそ、そのことが物を言う。」
との熱い思いで取り組んだとされています。
新施設でもこの精神を踏襲し、100年先まで
輝き続ける道後を目指しています。

愛媛・松山の伝統・文化

いまここにあり。

「温泉の癒し」と「美術館の雰囲気」をお楽しみください。

